

## e-ビーフNEWS 北の牧場から

May 2018

## 十勝の桜

桜が満開です。全国各地の満開から遅れてはいますが、北海道では一番早い函館と同時に咲きました。昨年より1週間も早く、連休初めからの桜並木はさすがに早いですね。昨日は28℃超えと全国でもトップクラスの気温に跳ね上がり体にだるさが残ります。内地のソメイヨシノとは違ってこちらはエゾ桜。ピンクの花と共にエンジの若葉も出てきて少し艶やかさがダウンしますが、それでも桜はサクラ。春だね～。同時にツツジや梅やコブシや一気に咲いてきます。順番を守っていたら間に合わないと思っているのでしょうか、慌ただしいです。朝焼けの5時頃から小鳥のさえずりがけたたましく、起きると言わんばかりのサマータイム状態です。



## 活動のお知らせ

- 4月9日(月) 札幌 北海道酪農畜産協会 北海道肉専用種枝肉共励会実行委員会 11月8日(木)開催  
北海道アングス牛振興協議会総会
- 4月20日(金) 帯広 ランチョ・エルパソ 北海道オーガニックビーフ振興協議会 第2回総会&訪欧オーガニック報告会
- 6月2日(土) 帯広 ランチョ・エルパソ 10:00~13:30 第19回定期総会&肉牛飼養技術研修会  
e-ビーふ試食・意見交換会

## NEWSばかり読み

- 18年度生乳生産 都府県3%減で夏場需給不足予測 4/3:生産現場深刻
- 新たな加工原料乳生産者補給金制度スタート 4/3:流通の変化に注目
- 中国対米報復措置で豚肉25%かんきつ類15%等実施 4/3:貿易戦争開始
- 福島原発事故 福島住民に対する慰謝料3月で終了 4/3:根本でなく
- 3月和牛子牛相場小幅下落 肥育コスト高で買い入れ意欲弱い  
4/3:枝@なんぼ
- 農林水産省 昨年伊藤忠が豪州から輸入した大麦から農薬検出  
4/4:時差が生む怖さ
- 韓国 口蹄疫豚事例2例目 4/4:隣国マンネリ化に注意
- 17年十勝畜産統計 生乳生産1.1%減114万t経産牛前年並12万5千頭  
4/5:伸びないな
- 黒毛生産農家2.5%減477戸繁殖2.3%増1万7310頭 4/5:繁殖大規模化へ
- リンゴ輸出2年ぶりに増加2.8万t中小玉に需要増 4/5:輸出も需要が変化
- 農研機構 赤大豆育成成功し栽培開始 4/7:黒から赤へ牛も同じ多様化
- 17年度農地価格 23年連続し下落 農業先行き不安で需要減  
4/7:将来性あるのに
- 内閣府 地域ブランド化へ「地域商社」の設立が全国で進む  
4/10:都市から地方へ
- 農林水産省 国産ジビエ7月に全国認証制度が開始  
4/11:衛生基準が進むか
- 豪州からの輸入メロンがリステリア菌に汚染  
4/11:国内で考えられない事が
- 17年和牛去勢と畜頭数 5年ぶりに昨対2.5%伸びる 4/11:実態増えたのか

- 佐賀県2~3ヶ月齢の和牛雌牛をゲノム評価 改良加速  
4/12:増頭にならず
- 国交省 空き地空家の全国情報バンクを設立 農村移住を促す  
4/13:生活環境整備
- 日ハム伊藤ハム主な食品メーカーが加工用鶏肉の供給体制を強化  
4/13:安全性は
- スパー各社2月決算 イオンセブン最高益、コンビニ成長鈍る  
4/13:流通の変化
- 世界貿易機関(WTO) 18年世界貿易量4.4%増加 4/14:世界は拡大
- 桜の季節が早まり 食材卸値が下落 4/14:タイミングと言うものがあり
- 17年度生乳生産30年ぶりに700万t割れ 都府県減少が続く  
4/17:回復できず
- 15年度食品ロス 推計646万t 4/18:コメ生産量と変わらず
- 農研機構(畜草研)牛豚汚水処理の温室効果発生ガス量が想定より4割減  
4/18:根拠
- 米粉ノングルテン商品の国内認証機関決まる 4/19:小麦に置き換わるか
- 施設園芸協会 植物工場の58%が赤字 4/21:石油資源依存が起因では
- 農林水産省 20年度までに畜産クラウド構築し乳牛情報の一括管理  
4/23:
- 福島産 17年度農産物輸出で過去最高のコメ主体210t 4/24:戻ればいいね
- 動物検疫17年度豪州産輸入牛乳牛でヨーネ病2522頭中61頭摘発  
4/25:いるね
- 財務省審議会 転作助成の全国一律や飼料米見直し 4/26:その前にやる事が
- 3月輸入統計で輸入野菜が43%と急増 4/27:相場だね その後の影響
- 雪印種苗 牧草などの品種偽装 4/28:会社体質未だ

## 東京直近NEWS (4/30 Shi-REPORT)

**ホルス** 5月枝肉相場はさらに上げ基調。枝肉相場上げ基調も、4月より連休前手当までは、赤身の引き合いもやや弱まり、逆にバラ系が逼迫している状況。カタロースも引き合い弱い、価格次第での対応で荷動き。コースについては、外食系からの問い合わせが増えており荷動き良くなってきている。全般頭数の不足傾向は続いており、季節要因含めてパーツ全般不足状況は続いている。赤身系の動きが弱くなってきていることが気がかり。

**経産牛** 枝肉相場は上昇基調。ガリ系でも枝@500以下の発生が少なくなっている。パーツの販売状況は、赤身系中心に順調であるがカタロース、バラの動きが弱い。カタロースはスライス用として販促すものの硬さとスライス歩留まりから敬遠、バラは引き続き引き合い弱い状況継続。挽き材については、若干価格が下がってきている情報あり、今後を考えるとコストアップしてくる見込みだが、価格は横ばいが限度維持が限度。夏場に向けて頭数の減少可能性は強く、値上げ要素が増えてくる。

# 左先生の畜産学研究NEWS

国内政治が国会資料の改ざんや日報隠蔽問題などで揺れている間に日米貿易協定でTPP11ではなく2国間FTA交渉を迫られるなど日本の農業に不安が生じています。東京2020オリパラ食材供給へ日本の農産物に国際基準と称する条件が付けられています。エシカルな(倫理的)消費やアニマルウェルフェア評価が持ち込まれ、農・畜産業界はそれに対処しようと躍起です。今年11月の環り協のシンポジウムテーマもこれに即して進めています。エシカル消費はフェアトレードなど現地の生産体制を商業主義から護るためのものとして意義があり、アニマルウェルフェアも欧米がこれまでの鶏、豚、仔牛などの苦しみからの解放を目指したもので高い倫理性が求められています。日本の農・畜産物をこのような基準に照らして再評価することは意義があります。一時的でなく2020年以降も農業の持続的発展・飢餓からの脱却という国際的目標SDGsの1つを目指して欲しいものです。e-びーふNews53号の学術情報は「畜産技術」#755と日畜学会第124回大会講演要旨から抜粋しました。

## 1. 畜産技術#755, 2018.4

1) 国内情報1: 第11回全国和牛共進会宮城大会を振り返って～肉牛の部 美味しい和牛肉を目指して～(穴田勝人, 全和登録協)  
わが国の和牛(黒毛和種牛)はこれまでのアニマルモデルBLUP法などの育種改良で肉量・肉質の改善が進みました。今後は第11回全共の枝肉で示された脂肪交雑と一価不飽和脂肪酸(MUFA)の結果からも、美味しさをもたらすとされるMUFAの測定やそれによる育種評価に推移していく必要があるようです。

2) 国内情報2: 肉用牛ベンチマーキング CattleINFOにおける4年間の成績データ(肥育農家編) (山根逸郎, 食農ビジネスセ)  
黒毛和種牛肥育農家がh25～h28の4年間にCattleINFOに送った各生産

指数のデータについて経年動向を解説しています。肥育素畜費と枝肉販売価格が生産者が肌で感じているように増加途上にあります。この傾向の中で自農場の立ち位置と他農場とを比較して経営改善を合理的に進めるのにCattleINFOは有意義のようです。

## 2. 日本畜産学会第124回大会講演要旨(2018.3.28～30) 東大弥生キャンパス

大会は総演題数338,7分野, 7公開講演会・シンポジウムと関連研究会等。牛肉関連課題はおよそ44題です、今回の積み残しが多数になりますので次回にします。

### 1) I-29-22. 発酵TNR給与が黒毛和種去勢短期肥育牛の肥育成績に及ぼす影響(安部亜津子他, 島根畜技セ)

8ヶ月齢から26ヶ月齢まで黒毛和種牛をCP16～125%, TDN72%～78%の飼料構成で発酵TMRと分離給与で短期肥育しました。その結果、発酵TMR給与で下痢や鼓脹症、肝炎は見られず、第一胃発酵の安定化による生産性の向上で肥育成績の低下は見られませんでした。

### 2) II-28-12. 黒毛和種粗飼料多給型育成子牛の死亡率に関する調査(坂本紗穂他, 帯畜大)

粗飼料多給型の黒毛和種9か月齢の育成子牛約47,000頭のデータから市場取引後の生産履歴を調査し、一般飼養の子牛との死亡率を比較しました。その結果、育成子牛への粗飼料多給はその後の死亡率を2.87%に、死亡月齢を19.2か月に低下させること、死亡個体の体重はいずれも約4kg低いことが明らかになりました。

## 国産牛 NEWS

### 2018年度 国産牛情報予想 全6回シリーズ④ マルハニチロ(株) 国産牛肉課 岩崎課長代理

